

協働事業評価書

事業名「わこう郷土かるた（わこうっちかるた）作成事業」

事業主体：和光市商工会青年部
担 当 課：生涯学習課
評 価 者：協働推進懇話会（委員 8 名）
評 価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価 【◎○△】	評価内容	評価 【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 4 人 ○ 4 人 △ 0 人	事業スケジュール	◎ 4 人 ○ 4 人 △ 0 人	■和光市の地域資源を幅広くかるたに盛り込んだことは高く評価できる。 ■子どもや子育て世代の家庭における地域への関心を高めるという目的は、十分に達成されている。 ■事業スケジュールを変更したのは、理に適っていた。進める中で柔軟に対応できた。 ■当初予定スケジュールからの変更はあったが、より良くするために必要な対応であった。その柔軟性を評価したい。
		事業成果	◎ 5 人 ○ 3 人 △ 0 人	■成果を測るために、原画展やかるた大会でアンケートを実施したことは良かった。 ■安定した団体の事業の成果と見受けられた。 ■事業スケジュールについては、概ね計画通りであった。読み句と絵札を 2 段階に分けて募集したり、予定になかった原画展を開催するなど、予定通りでない部分はあるが、成果をより高いものするためのもので評価できる。
②協働の評価	◎ 3 人 ○ 5 人 △ 0 人	プロセスの積み重ね	◎ 1 人 ○ 7 人 △ 0 人	■団体の活動に行政サイドが協力するという役割分担は、スムーズに行われた印象である。 ■郷土かるたなので、歴史的な部分をもう少し取り入れると良いと思う。
		事業の広がり	◎ 5 人 ○ 3 人 △ 0 人	■上毛かるたとの連携や、積極的なプレスリリースが評価できる。また、アンケートなども実施し、アウトカムでの客観的な成果指標を得ることも実施している。
		市民満足度の向上	◎ 5 人 ○ 2 人 △ 1 人	■市民に対し、市の歴史や文化に触れる機会を与え、市民自らがこの事業（原画製作やかるた大会）に参加することができるフィールドを与えたことの評価は高い。
		協働基本原則	◎ 1 人 ○ 7 人 △ 0 人	■「かるた」というツールを作成するとともに、大会を開催して活用の道筋を作るなど、今後も継続した展開が見込まれる点を評価したい。また、インターネット上でのダウンロードを許容するなど、利用者側の活用に配慮した点も評価したい。
		協働の成果	◎ 1 人 ○ 6 人 △ 0 人	■前年度に事業が決定するので、担当課も業務として年度計画にきちっと盛り込んでもらいたい。 ■協働事業が担当課の負担感を増やすことのないように、担当課の事業全体の中でうまく位置づけを図ってほしい。 【提案】 ■以前の「和光市文化かるた」のようにいつの間にか忘れ去られることも懸念される。そうならないように、配布先に定期的に活用を働きかけるなど、フォローも必要ではないかと考える。長く市民に愛されるかるたとなることを期待したい。
③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				■事業資金不足の解消は、この団体だからできたことである。 ■子どもたちだけでなく高齢者の啓発のためにも役立てることができると思う。(認知症等の予防にも役立つのではないか。) ■幅広い年代を巻き込む画期的な事業であったと思う。出来上がったかるたの質も高いので、継続的な事業となるよう、数年おきの改訂や増刷などがあると良いと考える。 ■I C T 化などと言われる時代に、「かるた」という昔ながらのツールを利用し、市の歴史や伝統、文化、歳時の継承、あるいは地域コミュニケーションに対して、一翼を担うこともできる事業である。数十年前に、教育委員会で実施したことがあったらしいが、それ以降途絶えていたところにこの事業が実施されており、今後の展開に大いに期待する。 【提案】 ■かるたを使って様々な活動の展開を期待したい。まち歩きやオリエンテーリングの他、小学校の地域を学ぶ教材としての活用も考えられる。 ■郷土かるたが地域に根付いていくためには 5 年程度の継続的な取り組みが不可欠と考えられる。団体も継続的な活動の意向を示しており、協働事業に端を発した取り組みとして、今後は生涯学習課にとどまらず、市行政全体で適宜協力できる態勢を整えていってほしい。 ■かるたをツールとして、子ども関係、高齢者関係、まち歩き関係などの団体や施設とのつながりをさらに広げていけるとよい。かるたを作ったことは、出発点である。 ■かるたのレンタル対応について、連絡窓口を一本化し、それを市民に周知した方が広く活用されるように思う。 ■かるたは活用すればするほど劣化することが予想される。そうなった場合の対応についても検討して欲しい。